

和牛甲子園の出場に向けて激励を受けた生徒ら(前列)
 美濃加茂市本郷町、加茂農林高校



15日に「和牛甲子園」4度目出場

出場するのは、生産科学動物専攻3年の青山凌河

と枝肉評価の2部門で競う。大会は15日、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐためオンラインで開催される。19県33校が47頭を出品する予定で、取り組み評価と枝肉評価の2部門で競う。

高校生が育てた肉用牛の肉質などを競う「第4回和牛甲子園」を前に、主催する全国農業協同組合連合会(JA全農)の県本部関係者が12日、県代表として出場する美濃加茂市本郷町の加茂農林高校を訪れ、生徒らを激励した。

加茂農林高生を激励

JA全農 県本部

さん(17)、各務竜ノ介さん(17)、井上貴教さん(18)、星野優菜さん(18)の4人。2年生の時に子牛で買った雌の「きんせい」を生後29カ月まで育て、この日、東京都中央卸売市場食肉市場へ出荷した。

同校は4度目の出場で、今年は超音波による肉質診断や血液検査による飼養管理など、科学的な分析を初めて取り入れた。青山さんは「丸く大きく育ってくれた。入賞を目指したい」と意欲を語り、JA全農岐阜畜産部の矢野昌彦部長、JAめぐみの清水清人代表理事専務から激励金を受け取った。(沢野都)